

下町河川 Tomorrow

これは東京都の江東内部河川流域連絡会の情報誌(議事録)です。

5月31日(水)

第4回江東内部河川流域連絡会が開催されました。



平成12年5月31日(水)PM2:00～
江戸川区小松川区民施設2階第一会議室において「第4回江東内部河川流域連絡会」が約2時間にわたり開催されました。

- ・都民委員9名(墨田区、江東区、江戸川区各3名)行政委員10名の計19名のうち、16名が参加しました。
- ・オブザーバーとして東京都下水道局より1名と臨時委員3名に参加していただきました。

当日は新委員の紹介、平成12年度の(都・区)工事概要説明、河川情報の提供があり、次に臨時委員として参加していただいた吉田幹夫氏が撮影した江東内部河川の写真のスライド上映が行われ活発な意見交換がありました。

質問事項等に対する回答

□河川の水位低下について

●水位低下を行うこととなった経緯は

⇒江東地区はかつて水運に恵まれ工業地帯として栄えていたため、この地域に密集する工場群による地下水の過剰揚水や、水溶性天然ガスの採取のため、大正時代から昭和48年頃までに4m～4.5mの地盤沈下が発生しました。このため河川水位よりも周辺地盤が低くなり江東地区はたびたび浸水被害を受けてきました。

この対応策として内部河川の護岸（堤防）は3～4回嵩上げしてきたわけですが、地盤沈下が続く中で住民の生命と財産をどのようにして守っていくか検討するために昭和46年建設大臣の諮問機関である「江東総合防災委員会」が設立されました。

そしてこの委員会の答申により西側の河川については耐震護岸を整備し、東側の河川については人工的に水位をAP. -3.0mまで低下させるという整備方針が出されました。その後昭和50年代に入って、地下水揚水の規制や、水溶性ガスの採掘権を東京都が買収したことにより、地盤沈下は収束の傾向を示し、昭和61年頃にはこれ以上の地盤沈下は発生しないという判断がありまして、当初AP. -3.0mまで低下させる計画であった水位をAP. -1.0mまで低下させる計画へ見直されました。

●計画水位をAP. -1.0mとしたのはなぜか

⇒江東内部河川は干潮、満潮の影響を受ける河川ですが、水位が最も低くなる干潮時の水位は約AP. ±0mであり、また江東内部河川東側地域の周辺地盤高は約AP. -1.0mです。

その周辺地盤高を考慮することと干潮時の水位AP. ±0mより更に1.0m水位を低く保つことで安全性を確保するという意味で計画水位をAP. -1.0mとしています。

□集中豪雨時の江東内部地区の安全性について

●100mm/hを超える集中豪雨が江東地区で降った場合どうなるか

⇒江東内部河川には木下川排水機場と小名木川排水機場の2つの排水機場があります。仮に100mm/hの雨が江東地区に降った場合、下水道のポンプを通じて内部河川に流入してきますが、その雨を上記2つの排水機場によって荒川排水するため、内部河川では洪水が発生しない設計になっています。

しかしながら下水道のポンプは50mm/h対応の能力のもので整備されていますので、例えば100mm/hの雨が降った場合には50mm/h分の雨は内部河川に流入し、荒川に排水されますが、残り50mm/h分の雨は窪地・低地には多少冠水するということになります。

都民委員の意見・感想

□情報公開について

- ・建設省の荒川下流工事事務所がスーパー堤防の基本構想のレポートをまとめていますが、その中で一般住民からのハガキで送られたスーパー堤防に対する意見をまとめてその内容をすべて掲載していました。

この姿勢がこれからの河川行政に必要なのではないかと思います。

情報公開という時代ですから我々の行っている流域連絡会でもどんどん情報を出していただいて、建設省がやったように普段は河川に興味・関心を持たれていない方からの意見もハガキなどで集め、集約しておいてはいかがでしょうか。

⇒これからは言われる通り情報公開の時代ですから建設省がやったようなことは見本となり、当然のようになっていきます。当流域連絡会でも運営方法をどんどん改善して行って、ここで集められた意見等を、反映させるようにしていきたいと考えております。(行政委員)

□河川風景について

- ・和船友の会という会に所属しているのですが、かねてから旧中川で和船を漕いでみたいと思っております。東大島駅は旧中川の上にあるので駅のホームから和船が見えると東京にはこんな河川風景もあるのかとみなさん喜ばれるのではないかと思います。(臨時委員)

⇒「東京構想 2000」という東京都政の長期ビジョンの中でも都民とのパートナーシップの構築のような話もあります。どこまで支援出来るのか、どこまでご協力できるのかということも課題になるかと思っておりますので、もう少し具体的なつめがなされればと思っております。(行政委員)

□これからの河川内部のあり方について

- ・昔の写真と現在の写真を見比べると、整備もされて、かなり緑が増えていてよいのですが、親水性を高めたいのか、外から見て緑が見えるようにしたいのか、どうしたいという明確な方向性がわからないという印象を持ちました。

内部河川は、他の川と違い、水位にしてもコントロールされている川なのでいろんなことが出来るのではないかと。

- ・スライドを見て感じた印象ですが、内部河川はどんどん整備され、すばらしい川になりつつあると思います。

しかし、だんだん良くなってくると昔のことは忘れていってしまうので、昔の状況も次の世代の人に伝えていくことも必要だと思います。

そういった意味で今回のスライド写真は、重要な資料になると思います。

□河川環境について

・スライドを見せていただいて青鷺が映っている写真がありました。青鷺と和蟹がいる水辺というのは最高の自然環境であると聞いたことがあります。

これは江東内部河川も自然環境が回復しているということなので素晴らしいことだと思います。

⇒動物、鳥、昆虫が生息するということは我々にとって安らぎ、安心となる部分もたくさんあると思います。

河川をそういう状況に作り上げていくのが我々の指名だと思っております。(行政委員)

行政委員の情報提供

行政委員、事務局により以下の資料についての説明が行われました。

- 平成12年度の都政（河川事業）のあらまし
- 平成12年度の工事实施予定について
(東京都・墨田区・江東区・江戸川区)
- 平成12年度江東内部河川にかかわる事業・活動の取り組みについて

【補足説明】

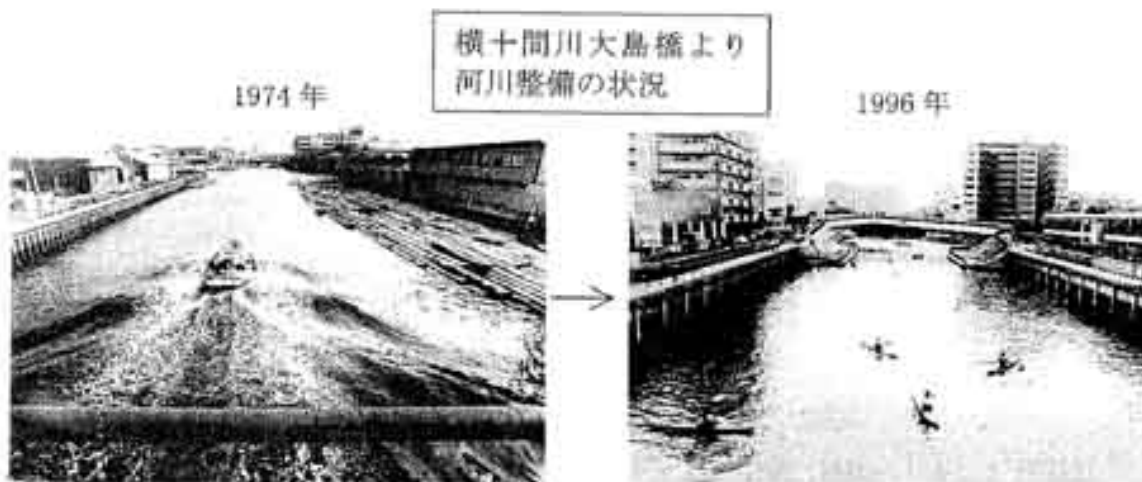
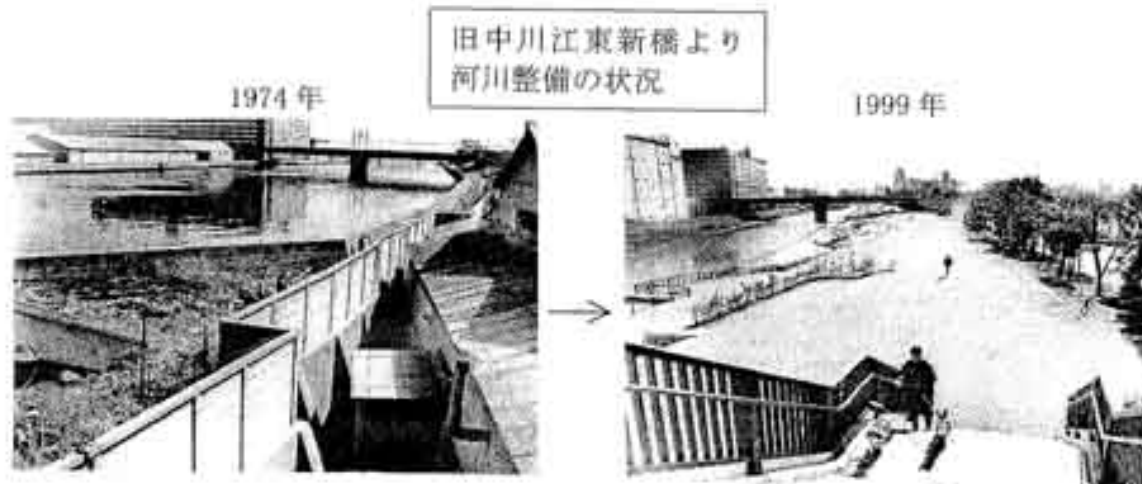
- ・平成11年度における水害について
- ・廃船の適正処理と再資源化のシステムについて
- ・江東水上バスについて
- ・旧中川でのボート教室について

内部河川の今昔

吉田幹夫氏撮影の江東内部河川の写真をスライド上映

今回臨時委員として参加していただいた吉田幹夫氏の撮影による江東内部河川の写真（昨年 11 月に江東区文化センターで「下町・川ものがたり」として展示）を今回はスライドとして流域連絡会で上映させていただきました。

昭和 49 年に撮影した写真と平成 8 年～11 年にかけて撮影した写真を見比べ、江東内部河川の変貌を確認し、これからの内部河川あるいは現在の内部河川について、活発な意見の交換がされました。



連絡会の今後の予定について

第5回は12月を予定しています。

江東内部河川流域連絡回（第4回）・委員名簿

（敬称略）

平成12年5月31日

都民委員 （9名） ※アルファ順	勝田 幸雄 木村 幸一郎 須永 淑子 田中 兼勝 中田 由和 西田 實 藤井 勇 藤井 達生 増田 レア	江戸川区 墨田区（欠席） 江東区 墨田区（欠席） 江戸川区 江戸川区 江東区 江東区 墨田区（欠席）
行政委員 （10名） (オプティマール)	渡邊 正雄 粒来 堯 高井 聖 柿沼 潤一 伊藤 博 山崎 孝一 高橋 紀男 内野 吉男 ◎下松 義之 高橋 一之 浅古 庄一	墨田区土木部工事課長 工事課 田中氏 江東区土木部河川公園課長 代理 伊藤係長 江戸川区土木部計画課長 代理 関 係長 東京都環境局環境改善部計画課長 東京都下水道局計画部施設計画課長 東京都建設局河川部副参事（係留船等対策担当） 東京都建設局河川部副参事（総合治水・低地河川防災計画担当） 東京都第五建設事務所管理課長 東京都江東治水事務所内部河川工事課長 東京都江東治水事務所水門管理課長 東京都下水道局東部第一管理事務所ポンプ施設課長
臨時委員 （3名）	加藤 勲 斎藤 富三 吉田 幹夫	江戸川区「灯籠流し」を行う会会長 江東区「和船友の会」会長 江東区

◎座長

連絡先： 江東内部河川流域連絡会事務局（東京都江東治水事務所内部河川工事課内）

担当： 下松・高橋

電話：（03）3692-4651 内線431 FAX（03）3692-9955